

令和元年第3回（8月）瀬戸内市議会定例会

教育委員会行政報告

市長の行政報告に引き続き、教育委員会から行政報告をいたします。

夏季休業期間を中心に各種スポーツ大会が行われています。

最初に、8月23日大阪府ヤンマースタジアム長居で開催された第46回全日本中学校陸上競技選手権大会で邑久中学校3年生の杉本仁君が、男子800メートルで優勝しました。この種目で岡山県勢が頂点に立つのは2014年以来という快挙でした。

その他、8月1日までに把握できた範囲内ですが、市内在住又は出身の選手が、全国規模の大会への出場を果たしています。個人競技では、卓球に大学生1人と小学生1人、バドミントンに高校生2人、アーチェリーに高校生1人、ペタンクに一般の方1人が出場します。団体競技では、軟式野球スポーツ少年団で1チーム、バスケットボールに高校生1人、バレーボールに小学生1人、ビーチバレーに高校生1人が出場しました。また、世界規模の卓球の大会に、小学生1人が出場しました。瀬戸内市出身・在住の子どもたちの活躍を大変うれしく思っており、教育委員会としても引き続き支援の充実に努めていきたいと考えています。

○ 学力・学習状況調査について

今年4月に実施された学力・学習状況調査の結果について概要をお知

らせします。

今年度は、全国調査においては小学校6年生の国語、算数の2教科と中学校3年生の国語、数学、英語の3教科を実施しました。また、岡山県の調査は小学校3年生から5年生までと中学校1年生を対象に国語、算数・数学の2教科を実施しました。さらに中学校2年生は国語、数学、英語の3教科を実施し、市独自の調査は中学校1年生の社会、理科の2教科を実施しました。

その結果、全国調査については、平均正答率が、小6・中3の両学年とも、どの教科においても、岡山県平均を上回っていました。県、市調査については、どの学年も概ね本調査で問う内容について、到達していると判定できる目標値を超え、平均正答率も県以上ですが、一部の学年の教科では課題がみられました。

学習状況調査では、家庭で1時間以上学習する児童生徒の割合が、県平均を上回っていました。また、自分で計画を立てて家庭学習をしている児童生徒は、正答率が高い傾向が見られました。今後も家庭学習の充実については、時間を増やすことだけでなく、質の向上や自主的な取組となることを目指していきます。

学力・学習状況調査は、児童生徒の学力面と生活面の実態や課題を的確に把握し、各学校の実情に応じた取組や児童生徒の実態に応じた指導を進める上で、貴重な資料となっています。

今年度の結果は、概ね正答率や肯定的な回答が県平均を上回っていましたが、今後も、学力・学習状況調査の結果を真摯に捉え、教師の授業力と児童生徒の学習意欲の向上に活かしていきます。

○ 学校施設整備について

「公共施設等先進的CO₂排出削減対策モデル事業」による小学校の省エネ型空調設備やLED照明等の整備については、夏季休業期間を利用して、邑久小学校、今城小学校、美和小学校、国府小学校、行幸小学校の5校で現在整備を行っています。

また、邑久小学校においては、体育館の北側のトイレ改修工事やブロック塀の改修工事を行っています。今後は第1プールの改修工事を予定しています。

行幸小学校校舎と牛窓東幼稚園園舎の大規模改造工事については、工事期間中に利用するための仮設校舎と仮設園舎を2学期中に設置する予定です。

○ 備前長船刀剣博物館の改修について

備前長船刀剣博物館は、昭和58年に開館以来の経年劣化や空調設備の構造に不備がみられることから、収蔵品や展示品の維持管理に支障をきたしており、来館者の鑑賞環境も悪化しています。今後の開館に支障を及ぼすことが想定されるため、空調設備等の更新等を行い、より適切に展示品等の維持管理を行うための環境設備の構築が急務となっています。

このため、内閣府の地方創生地方拠点整備交付金を活用し、空調設備の更新等の改修を行う計画にしており、関連予算を今議会に補正予算として計上していますので、よろしくお願いします。

○ 備前長船刀剣博物館の特別展について

備前長船刀剣博物館では、7月13日から9月8日まで、夏季 特別展「備前刀×美濃刀 長きに続く日本刀の聖地」を開催しています。

備前（岡山県瀬戸内市長船）と美濃（岐阜県関市）という日本刀の2大生産地にスポットを当て、瀬戸内市と関市で主に作られた日本刀を紹介しつつ、長い歴史を経て日本刀制作文化を育んできた両市の概要や文化を知っていただくことを目的としています。

関市からは指定文化財に指定されている「伝金重」をはじめ、関の孫六こと「二代目兼元」や「兼定」など美濃を代表する刀を、本館からは「兼光」や「康光」などを展示しており、美濃刀と備前刀を製作した名工たちの作品を見ることができます。

また、9月14日から、「一文字と長船」と題して、秋季特別展を開催します。

備前刀の中でも、備前国の東部を流れる吉井川の流域で興った「一文字派」と「長船派」の作品は特に優れ、国宝や重要文化財に指定されているものが多くあります。

本特別展を通して、瀬戸内市長船地域を中心とした地域で作られた「一文字派」と「長船派」の名品に触れると共に、この地域の日本刀の歴史に迫っていきます。

○ 瀬戸内市立美術館の企画展について

美術館では、8月16日から9月8日まで、企画展「かくれざきれいな隠崎麗奈展—ふいんきふんいき—」を開催し、計20点の立体作品を展示しています。隠崎麗奈氏は瀬戸内市出身のモダンアーティストであり、地元出身の芸術家を広く知っていただくことを目的としています。

また、9月13日から11月10日までは、特別展「一驚愕一超絶の世界展」を開催します。近年、緻密で精巧な作品を生み出す明治時代の技術が全国の美術展覧会で話題となりました。美術館では、そのような緻密な作品を制作している7人の現代作家の新作となる絵画、切り絵、陶芸などを展示します。会期中にはアーティスト本人によるアーティストトークや製作過程の実演をすることになっています。老若男女問わず誰にでも分かりやすく楽しめる芸術であるため、多くの人に芸術を身近に感じ、触れてもらえるきっかけとなればと考えています。

以上をもって、教育委員会の行政報告とさせていただきます。

令和元年8月28日

瀬戸内市教育委員会

教育長 東南 信行